

## 説教ワポイント

### 平和の計画

フリピ。三・八〜一

エレミヤ二九・一〇〜一

ノーベル文学賞がボブ・ディランに贈られるそうです。その代表曲の一つに『風に吹かれて』があります。

「人はいくつの道を歩いて行けば、人と呼べるようになるのだろうか。…なんと爆弾が放たれれば、禁止されるようになるのだろうか。答えは、友よ、風に吹かれて、答えは風に吹かれている」

ベトナム戦争や公民権運動の際に米国で多くの共感を呼びました。何が正しいか、みな「答え」が分からなくなっていた時代。人間が考え、作りだしたものがどこかおかしい、もしかして違っているのではないか、気づき始めたのです。

今日、パウロの語る言葉と不思議に共通します。由緒正しい出自のユダヤ人として律法を熱心

に勉強し、律法の正しさについて非のうちどころのない者と言われていたパウロ。しかし、

「私にとって有利であったこれらのことを、キリストのゆえに損失とみなすようになった」。人生半ばまで自分を支えていた誇りや立場をある日突然かなぐり捨て、「塵あくた」と呼ぶことなどなかなかできない。何が彼をそうさせたか。

「キリストのゆえに」。それまでパウロは自分という人間が正しいと呼ばれることを懸命に目指していました。でも、キリストと出会ったとき、「キリストを信じることによる、神からの義がある」と気づいた。「正しい方」は自分ではなく、神さまの方だった、と。

「私はあなたたちのために立てた計画をよく心に留めている。それは平和の計画である」とエレミヤは預言しました。人間の計画は必ず挫折する。しかしその時、神さまの計画があることに気づく。平和をもたらすための、計画が。